

(第2報) 和服の嗜好性と性格との関連性について

武庫川女大家政 井尻 登喜子 ○南日 朋子 梅花短大 家本 修

目的; 本報では振袖のスライドによる写真のイメージ調査から嗜好性の分類を行ない、性格との関係についても考察を行った。

調査; 調査対象: 短大1年生(6学科)308名、有効解答者292名、解答率94.8%

調査期間: 1988年10月7日～10月24日

調査方法: クラス単位による集合調査法

調査内容: ①和服のイメージ 1項目 ②和服の着用意識 20項目  
 ③洋服の嗜好性 10項目 ④性格行動 15項目  
 ⑤振袖のスライドによるイメージ調査 17項目

結果; ①14枚の振袖のスライドによる嗜好性を見ると、いま流行の、大正ロマンを思わせるような色調のはっきりしないものが好まれていることがわかった。(スライド番号B、Kなど)。反対に好まれていない傾向のものは、大きな柄のコントラストのきつい色彩のものであった。(スライド番号E、Lなど) ②これら14枚の写真のイメージを求めるために因子分析を行った結果、3因子が抽出された。第1因子は「評価」の因子で、第2因子は「色調」、第3因子は「個性」の因子とした。③次に、和服に対する意識と性格行動の関係を見ると、ニュー着物を着てみたいと思う人は、好奇心が強く、さらに派手な着物が好きだという人は、言いたいことを遠慮なく言ってしまふ、欲しいものを手にいれないと気がすまない、というような積極的な性格の人であることがわかった。